

## 序章 従業員類型別教育訓練コース及び教材開発

“従業員類型別教育訓練プロジェクト”は昭和61年4月に発足した。その目的は、今日、企業の現場に生じている様々な従業員教育の問題の解決に教育訓練の立場から貢献することである。

今日、労働者の職業能力開発をめぐる諸条件の変化は急速かつ広範囲なものとなっている。それだけに社会経済情勢の急激な変化と職業能力開発との関わりについての研究が重要になっている。このような研究が労働者の職業能力開発の具体的改善に結びつくものであるためには、企業の現場での様々な種類の従業員問題に即した研究でなければならない。

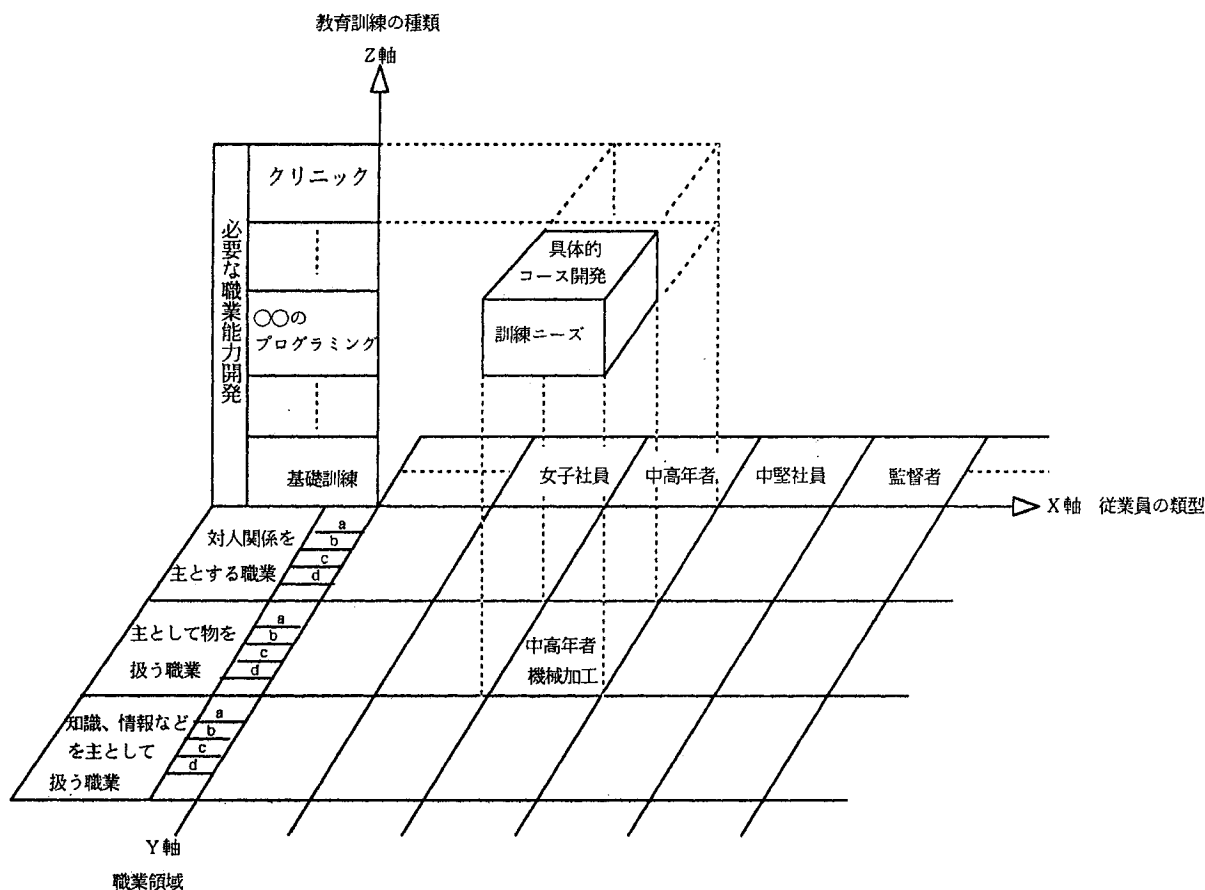
そこで、我々は諸条件の変化の中で在職労働者に対してどのような職業能力開発が求められているか、その共通的問題事項について教育的視点から“従業員類型別”教育訓練研究にとりかかった。

### 1. 従業員類型別教育訓練研究とは何か

- (1) 企業の中での従業員問題は極めて多岐にわたっている。従業員のタイプという観点から整理すると、例えば、「技能者」のテクニシャン化、再復帰「女子」の職場適応の円滑化、「中途採用者」の即戦力化、「中間管理職」の問題解決能力の向上、「中高年齢者」の活性化等の問題があげられる。このような、現に企業の中での具体的な問題を“従業員類型別課題”としてとりあげることにした。
- (2) そしてこのような企業内で意識されている雇用管理上の問題を近年における著しい環境変化の中でとらえ直すこと。例えば、単一技能から実務の理論的裏づけを持った技能者への高度化など、これら従業員に求められている生産現場での諸要請を教育訓練上の課題としてとらえ直す。その上で実際に在職労働者の職業能力開発を行うために“従業員類型”別に必要な教育訓練コースの開発研究を行う。
- (3) 従って、研究の課題は様々な業種（生産、流通、サービス、情報処理など）における従業員類型別問題と教育訓練とのかかわりを追求することになる。

以上を要約すると、この研究において我々が取り上げようとする“従業員の類型”をX軸にとり、次に職業領域の目安として①主として物を扱う職業、②対人関係を主とす

る職業, ③知識, 情報などを主として扱う職業に分けてY軸とし, さらに教育訓練上の課題としてとらえ直すことにより求められる訓練ニーズ, つまり必要な職業能力開発の種類をZ軸にとると, 次図のように構造化できる。



以上のようなとらえ方によって明らかになる類型別教育訓練上の課題を, Off-JTによって訓練コースを設計し, 教育機会を在職労働者に準備しようとするものである。この場合の公共訓練の教育機能としては定型的, 一般的な訓練ではなく, いわば問題意識型のあるいはテーマ別の教育訓練を志向するものとなる。

## 2. 本プロジェクト研究の方向

(1) わが国の企業において一般的に行われている「OJT中心の職業能力形成」を補完する企業内外のOff-JTの教育訓練機能を検討することとし, そしてOJTとOff-JTの相互の発展的関係を明らかにすることとする。

(2) 様々な従業員類型の教育訓練問題も業種、職種に応じてそれぞれの問題のあり方は異なるので、成果を生み出すためには、例えば、一定の技術的領域を設定して生産現場の具体的な問題点に迫らねばならない。即ち「技能者のテクニシャン化」一般としてではなく”機械加工現場の問題”として、さらにそこでの”測定技術”の、あるいは”生産管理”等、現場で取り上げられている問題の核心をつかみ出して研究の対象とする。

(3) 次に、従業員類型別の“問題”を教育訓練の課題として検討、抽出して訓練目標を明確化し訓練コースを設定するものである。そして教育訓練対象者の特性を考慮して授業を設計することになる。

具体的には教育訓練ニーズに基づき、訓練方法、カリキュラム、教科書、教材などを含め、訓練コースをシステムとして設計することを目標としている。

(4) 訓練コース開発は理論的な検討をふまえながらも臨床的かつ実践的に行うものとする。

従って本研究においては特定の地域と教育訓練施設を選定し、施設との共同研究によって〈計画－実行－評価〉を行うものである。

### 3. 本年度の研究

#### (1) 研究の進め方

(ア) 研究プロジェクトチームの編成は次のとおりである。

工学の各分野の専門家でかつ訓練指導を経験しているグループと人文社会系の専攻グループ一体として編成した。

(イ) 研究の進め方は理論的な研究と実践的な研究とを並行して行うことにした。

理論的な研究は〔どのような職業能力開発が求められているか〕の検討と〔どのように教えるか〕の検討に分けた。

なお、実践的な研究である具体的訓練コースの設計に関してはメンバー全員で行うことにした。

#### (2) 研究テーマ

当面の研究テーマは、従業員類型の中の「中高年齢者」をとりあげ、具体的には、いわゆる中年期の機械加工技能者を対象とすることにした。研究の過程において我々

の共通問題意識として認識したことは実践編に述べるように、中年者は仕事の上で指導的役割を果たすことが期待されているが若手の指導が十分にできていないということ、また効果的に職場内での仕事を教える方法を持ち得ないということである。そこで先行研究として行われている“技能のとらえ直し”としての「技能クリニック」手法を活用し、教育訓練コースを開発することにした。地域としては比較的中小機械工場の多い山梨県を選んで調査研究を行い、山梨技能開発センターの向上訓練コースとして開発することとした。なお、このコースは昭和62年10月に実施する。